

浦添市美術館が二十歳になります!

平成22年2月1日に、県内では初めての本格的な美術館として開館した浦添市美術館は、これまで156万人以上の方々に足を運んでいただきました。20年前「沖縄で本物のゴッホやピカソの絵を観ることができなんて夢みたい!」と市民や県民は喜び、「ヨーロッパ近代絵画の流れ展」では8万人以上が濃厚な芸術作品に酔いしれました。

全国の中ではまだまだ若い美術館ですが、これからも工芸作品を中心にあらゆる芸術作品を紹介し、子どもからご年配の方まで親しみの持てる美術館活動を実施します。

美術館20年間の主な出来事を振り返ってみましょう!

浦添市美術館開館式典



平成2年2月1日

浦添市美術館は、県内で初めての本格的な美術館として開館しました。

友好提携調印式



平成4年6月1日

ともに漆芸を中心とした美術館であることから、石川県輪島漆芸美術館と浦添市美術館の友好提携が締結されました。

近代フランス美術展



平成4年11月

近代フランス美術展で展示された「考える人」(ロダン)を食い入るように見つめる子ども達。

浦添市美術館来館者150万人記念!!



平成21年2月7日

平成21年に浦添市美術館は来館者150万人目を達成しました。

問い合わせ 浦添市美術館 ☎879-3219

むかしのむかし、あるところにいる女の子がいました。その子は、お父さんの身代わりとして野獣に捕えられていました。でも、野獣は本当は人間の王子様で、心が汚かったために魔法で野獣に変えられていたのです。その魔法を解くためには、一輪のバラの最後の花びらが落ちるまでに誰かを愛さなければなりません。女の子は……

「すーず、行くよー」玄関から聞こえる母の声に、鈴里の思考は中断された。「分かった母さん。今行くから」と言って、急いで荷物を持つ。今まで過ごしてきた家は、家具がなくなりさみしくなった。

「今までありがとついでに……」鈴里は部屋に頭を下げると、急いで外に出た。

車でゆられながら鈴里はリュックから本を出した。引越しの片付けの時に見つけたのだ。少し厚くて、いくつのお話が入っている。鈴里はおとぎ話が大好きだった。中でも『美女と野獣』は、何度母に読んでとせがんだらう。なつかしいが、最後に読んだのはいつだろうと思いつつながらページをめくります。

「ん、白紙……」

「さっか……」

雷の音に、鈴里は飛び起きた。さっきの感覚は、意外と早くおさまったようだ。それにしても「白紙」はどんなだろう。真っ暗で何も見えない中、一歩一歩進んでいくと奥から声が聞こえる。

「いつか早く来て」

暗闇に目が慣れてくると、鈴里はすぐに声の主の目元をのぞいてみた。

「あなたにお願いがあるの……」

鈴里は、目の前の人物に驚きすぎて声が出なくなっていました。その人は、鈴里が幼いころ好きだった物語の主役だったから。しばらくの間見とれていて、怒られてしまった。

「だーから、話聞いてる?あなた物語を途中で読んだまま、何年もこの本を開いてくれないから、物語が進まないの。わかる?」

主役というものは、意外に短気らしい。「一気に早く読んでみてほしい。一気に早く読んでみてほしい。一気に早く読んでみてほしい。一気に早く読んでみてほしい。」

「さっか……」

「白雪姫のところへ行って、そこにある特別な本の力を借りて、物語をもつ一度進めてほしいの……」

どうすれば進めることができるの?どうしてその本が白雪姫のところにあるの?聞きたい事はいっぱいあったが、答えてくれそうにない。「分かった」と言うのでうなずいた。

「これを持って行きなさい」と言われて手わたされたのは、手のひらサイズの砂時計だった。

「こんな何に使うの?」と聞くと「この砂がすべて落ちるまでに物語を進めて。もうゆっくりしているヒマはないの。物語が止まってから、

2009 21st YEA文芸賞 創作文芸部門 煌賞

城の秘密と魔法の本

比嘉 みなみ

鈴里が心配になり聞いてみると、小人達が顔を上げて口々に答え始めた。

「白雪姫が毒リンゴをかじったのに……」

「王子が助けに来ない……」

「あの城の物語が止まったせいで……」

「僕らの物語まで……」

すると、今までだまっていたお妃が口を開き、小人達を静かにさせた。

「あなたが探しているのはこの本ですか?」

「小人達が言っていること、あなたならわかるでしょう。でもね、異変はここだけじゃなくて、本を読まない子供が増えているせいで、他の本の村まで、どんどんおかしなことになる……」

「さっか……」

「さっか……」

INTERVIEW
創作文芸部門 煌賞
比嘉 みなみさん
(仲西中1年)

まさか自分が受賞するとは思ってなかったので、連絡があった時はびっくりしました。幼稚園の頃から絵本を書いたり、小4から小説は少しずつ書いていたりしていましたが、本格的に小説を書くのは今回が初めて。文字数の制限があり、どこでカットするか悩みました。機会があれば、来年も応募したい。また他の文芸賞にも挑戦してみたいです!